宮城県における全国がん登録への対応（第 3 報）

届出後アンケート調査からみた現状と課題

佐藤 優希[1]　西方 萌[1]　只野 尚子[1]　目崎 はる香[1]
齋藤 美登里[1]　佐々木 真理子[1]　鈴木 智子[1]　金村 政輝[1,2]
[1]公益財団法人宮城県対がん協会　[2]宮城県立がんセンター

【目的】

全国がん登録の届出が開始され、当県でも説明会など開催し、準備を行ってきた[1,2)]。しかし、事前にわからない事も多く、また、全ての施設ががん登録について詳しくないこともあり、多数の問い合わせを受け、また、多数の確認・修正を行った。今後の説明会などの届出支援策のあり方を検討するため、アンケート調査を行ったので報告する。

【方法】

宮城県内の届出対象施設 140 の担当者宛に郵送と電子メールでアンケート調査を行った。質問は、(1)届出対象の抽出（漏れの有無）、(2)届出情報の作成（容易かどうか）、(3)届出情報の作成方法、(4)オンラインシステムでの届出（容易かどうか）、の 4 項目とし、(1)、(2)及び(4)については、5 段階で回答を求めた。また、説明会で取り上げてほしい内容などの意見・要望は自由記載とした。当県では出張採録により地域がん登録を行ってきたため、がん登録への関わりの度合いから回答施設を報告病院、採録病院、新規の 3 つに区分して集計を行った。

【結果】

112 施設（80.0%）から回答があり、報告病院 16（14.3%）、採録病院 14（12.5%）、新規 82（73.2%）であった。担当者の職種は、診療情報管理士 33.9%と事務職 57.1%が圧倒的に多く、合わせて 91%に達した（図 1）。(1)届出対象の抽出では、「漏れはない」と「ほぼ漏れはない」の合計は 69 施設（61.6%）、「少し漏れがある」と「結構漏れがある」の合計（以下「漏れがある」）は 19 施設（17.0%）であった（図 2）。施設別に見ると、報告病院と採録病院では、「漏れがある」が多く、新規では「漏れがある」は少なかった。(2)届出情報の作成では「とても簡単だった」と「簡単だった」の合計は 12 施設（10.7%）、「苦労した」と「とても苦労した」の合計（以下「苦労した」）は 44 施設（39.3%）であった（図 3）。施設別に見ると、報告病院と採録病院で「苦労した」が多かった。(3)届出情報の作成方法は、電子届出票への直接入力が 50 施設（53.8%）、Hos-can R が 33 施設（35.5%）、独自システムが 6 施設（6.5%）

であった（図 4）。(4)オンラインシステムでの届出では「とても簡単だった」と「簡単だった」の合計は 23 施設（24.7%）、「苦労した」と「とても苦労した」の合計は 20 施設（21.5%）であった（図 5）。自由記載での意見・要望は、届出に必要ながん登録の知識・情報の提供、システムの改善についてが多かった。

図1　担当者の職種

図2　届出対象の抽出

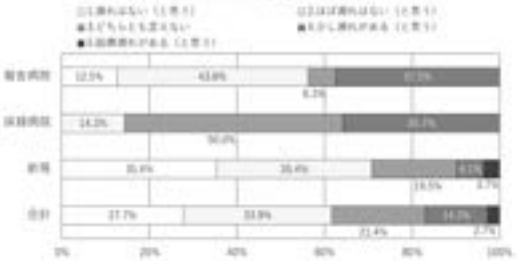


図3　届出情報の作成

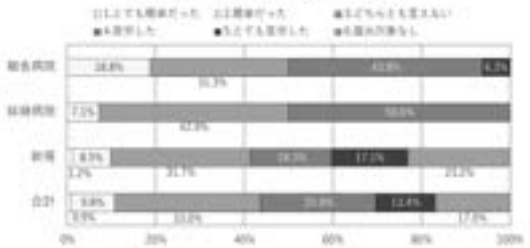


図4　届出情報の作成方法

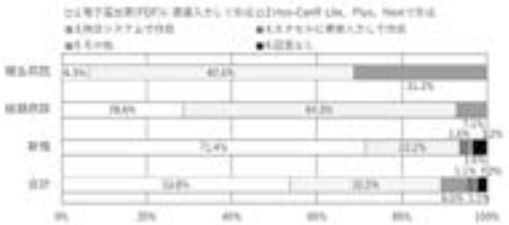
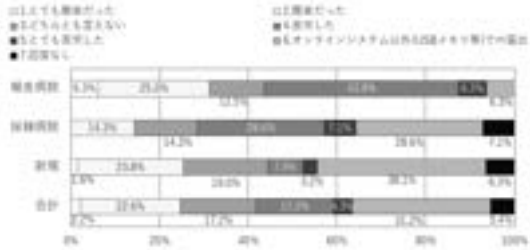


図5　オンラインシステムでの届出



【考察】

届出対象の抽出では、報告病院及び採録病院において、「漏れがある」と回答した割合が高かった。これらの施設では、これまで地域がん登録に協力してきた経験があることから、自施設の抽出について冷静に評価したためではないかと考えられた。また、届出情報の作成及びオンラインシステムでの届出については、施設を問わず、苦労した施設が多かった。次回以降の届出が速やかに、かつ適切に行われるよう支援していきたい。

【COI 開示】

当演題発表に関し、開示すべき COI はありません。

引用文献

1） 金村政輝，佐々木真理子，齋藤美登里，長澤あかね，鈴木智子，鈴木美裕紀，只野尚子：宮城県における全国がん登録への対応－届出病院支援の取り組みー．JACR Monograph 2016;22:132-139.

2） 長澤あかね，佐藤優希，目崎はる香，齋藤美登里，佐々木真理子，鈴木智子，鈴木美裕紀，只野尚子，金村政輝：宮城県における全国がん登録への対応－届出病院支援の取り組み（第 2 報）－．JACR Monograph 2017;23:89-93.